

## 2025 (R7) 年度後期「生徒による授業評価アンケート」の来年度に向けた改善案

- 【国語科】最も満足度が低かったのは問5への回答で、生徒同士が意見交流する機会が少ないことに気づいた。科目あたりの単位数が少なく、発展的な学習を省略することが多いのが原因であった。今後は手法を工夫して短時間でも意見交流できる授業展開をつくりたい。
- 【地歴公民科】次年度も導入時の課題の提示と振り返りを意識的に行い、知識分野についてICT等も活用し効率よく教授することで、与えられた課題を授業で学んだ知識を用いて適切に解決していきよう指導していく。また、3年次科目の後期のモチベーション維持に向けて、年間の指導計画をより体系的に考えていきたい。
- 【数学科】数学科全体の評価平均は3.23であり、特に「既習事項との関連付け(Q7:3.30)」や「習得の実感(Q4:3.30)」に強みが見られる。一方で「学習のねらいの提示と振り返り(Q1:3.19)」や「他者との対話を通じた視点の拡大(Q2:3.14, Q5:3.15)」多様な解法を共有する場면을意図的に創出し、他者の考えを取り入れて自らの思考を深める活動を推進する。また、授業の導入と終末での振り返りを構造化し、生徒が学びのつながりと成長を実感できる指導を強化していく。
- 【理科】理科全体では、自分の考えをまとめたり解決方法を考える機会についての項目が前期に引き続き高かった。また、前期と比較すると、学習のねらいを示したり、学習したことを振り返ったりする機会についての項目以外の平均値が上がっていた。来年度に向けては、授業や単元ごとの目標の提示や振り返りをしっかりと行いたい。
- 【保健体育科】「他者の考えを共有する場の設定」という項目の評価が低かった。他者とのコミュニケーションの場を設定することが授業55分という制約の中ではとても難しい。しかし、日頃からコミュニケーションを取ることが苦手な生徒が増えてきているため、次年度はコミュニケーションの場を仕組み的に設定することが必要だと考える。
- 【芸術科】今年度前期と比較すると、自分の考えをまとめてできるようになったという項目の平均値が高くなった。しかし、他者の考えを知る機会を通して、自分の考えが広がったり深まったりしたと実感できている生徒が芸術科全体ではまだ低い。次年度は自分の作品や実技課題に、その広がった考えをいかし更に自分の考えを深めていくような場面をつくりたい。
- 【英語科】低学年においては、継続的な評価活動や表現活動の導入が、生徒の学習実感と定着に大きく寄与した。3学年は進路決定に伴う学習意欲の二極化が課題となったが、これは多様なニーズに対応する授業実践を深化させる契機と言える。今後、蓄積した指導成果を基盤とし、教員側がより明確な目的意識を持って授業運営に当たることで、通年での教育の質の維持を図る。
- 【家庭科】“自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができる”は3科目とも数値が比較的高く、生徒自身もできたと捉えられる。ホームプロジェクトなどの課題解決学習を引き続き生徒自身に考えさせながら進めていく。  
また、“自らの考えを広げ深めることができる”に関しては、共通して低かったため、考えを他者と共有できる場面を多く作れるよう、工夫していきたい。
- 【情報科】グループ活動をなるべく多く取り入れてはいるが、他者の考えを知る機会や新たな考え方を知るなどより深い学びに繋がっていないことが伺える。次年度は思考する時間を増やし、グループで相互に課題を解決し、思考力向上を目標に授業改善を行っていきたい。